

❀ 平成17年 年頭のご挨拶 ❀



松井大悟

JSTT 日本非開削技術協会 会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されたJSTTの理念は、「電力、ガス、通信、水道、下水道など地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、マッピング等に関する非開削技術情報の交流により、わが国の地下利用技術の進歩、および安全性の向上を図り、広く社会公共の福祉の増進に寄与すること」となっています。さらにJSTTの15年に及ぶ活動の中で非開削技術が環境の保全に貢献するとの認識が高まってまいりました。非開削技術はコストダウンに大きく寄与すると共に、道路を開削することなく施工できることにより、建設発生土の抑制、工期の短縮、騒音の軽減、景観の維持等環境にやさしい技術であるとの評価を受けつつあります。今後この面の評価をさらに上げるべく努力していきたいと思っています。世界非開削技術協会も広報においてこの面を強調しています。最近この評価は国際的にも認められつつあり国連のUNEP（国連環境計画）において、この技術は環境に寄与する技術として認識されています。特に人口集中の著しい開発途上国の都市において積極的に採用されるよう積極的なPRと技術開発の要請が、先ほど日本で行われました水フォーラムでIETC（国際環境技術センター）よりなされました。

本誌タイトルを「非開削技術」から「No-Dig Today」に改めて2年目になりますが、編集委員会・編集企画

小委員会の各委員の努力により内容が充実してきたとうれしく思っています。さらに道路を管理されている方々にさらに配布先を広げて、非開削技術の環境保全の役割について理解を得られることを期待しております。「道路を掘らない技がここにある」をキャッチフレーズに非開削技術の普及をさらに発展させるよう今年も努力していく所存です。

昨年はインターネットを利用して推進工法の設計をサポートする「工法ナビゲーションシステム」の本格的な運用を開始しました。また欧米では非開削技術の代表的技術となっているHDD（誘導式水平ドリル工法）の日本での採用の機会を拡大するための検討会の立ち上げも行いました。今年も会員の意向に沿った施策を行いたいと思っています。また本年は9月にオランダ・ロッテルダムでNo-Dig2005が開催されます。会員の積極的な参加を期待しております。

今年も気持ちをあらたにして遠山名誉会長、楠田、篠原、石川各副会長のご支援を得て協会の発展に努力をしていく所存です。宜しく願いいたします。日本におきましても、インフラの構築・維持のためには非開削技術の必要性はますます高まっています。会員の皆様におかれましても、この流れに乗り新しい年こそ飛躍の年になることを祈念して私の挨拶といたします。